

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム藤苑 (あかね)		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	平成 24年 9月 28日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201339-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 24年 11月 20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある		
		<input type="radio"/> 3. たまにある		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が		
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症状がどんなに重くなっても、穏やかな症状と笑顔がある安心した生活を送ることができることを地域の方々にも知ってもらうためにも、地域に開かれたグループホームを今後も目指していく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の幼稚園・小中学校とは継続的に交流している。特に中学生が年に1度窓ふきのボランティアを9年間続けてくれていることは意義がある事だと思う。また、昨年度は町内会の総会にも出席させて頂き年々地域に根差してきていることを実感している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理事長をはじめ、法人の職員が車いすを持参して中学校の介護講習を毎年実施している。また、2か月に一度認知症を抱える家族の会も継続して行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族全員が運営推進委員になっており、町内会長をはじめ地域の皆さんと共に、グループホームのサービスの実際は勿論、看取りなどの勉強会も行い利用者にとって家族・職員が何を求められているのかなどを話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の担当の職員には、疑問点などを常に聞いている。又東区役所の主催の「災害時の要援護者支援ネットワーク構築」に係るグループホーム懇話会にも参加して協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、2Fに1名臥床時のみ柵を2本つけている入居者がいる。センサーも設置しているが間に合わない為家族の強い希望もあり拘束となっている。このことについてはリスク会議を開き職員間で主の気持ちを十分考慮したうえでの決定となっている。玄関の施錠については一般家庭と同じカギにしているが、夜間はセンサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては新人を中心に外部研修に参加していたが今年の中堅が虐待の研修に参加している。また、職員のメンタルに関しても管理者がメンタルヘルスの研修に参加し一人一人に対して気遣うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	5年未満の職員・中堅職員の5回の他施設との合同研修の中においても権利擁護について学んでいる。また、運営推進委員会でも日常生活自立支援事業や成年後見制度について講師を呼んで講演してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に何回かご本人とご家族にお会いしたり、来苑してもらったりして、当苑の理念や方針を話し、理解して貰った上で、契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族全員がなっている為、2か月に1度ご家族が理事長にも会い、運営に関することや現状などをお知らせしている。又、年に1度家族との懇親会も継続して行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回法人で全大会を開催して、理事会で決定した事の報告を行っている。その後に懇親会を行い親睦を深めながら意見交換を行う体制にはなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は等級制になっており、職員の努力や実績によって等級を上げていくシステムにはなっている。各自が向上心を持って働ける環境にはなっていると（職員が働きやすいと常に言っている）が、それがあまり給料に反映されていない現状はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修に関しては管理者に任せもっている。また、今年度は他の法人との合同研修も企画してくれて内部研修に関しては充実していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区の東部地区在宅医療連携協議会や東区の災害時の要援護者支援ネットワーク構築に係る懇話会にも参加し他施設とのネットワーク作りが活発になってきている。しかし、まだ職員の交流までには至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを含め、管理者が話を聞く機会を多く持ち、本人の状態を見極めることから入り、会話の中から何を望んでいるのかを良く知り情報を共有する事で、安心してもらえるような信頼関係作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のご本人に対する思いを受け止め、御家族が何を一番望んでいるかを見極め期待に沿えるように家族と共にご本人を支援していることを理解していただく。又、協力して欲しい事や、対応出来ない事は説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望のご家族にはまず、見学に来ていただき、できればご本人にもきていただくようにしている。ご本人に当苑を見ていただく中でご本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には通所サービスや訪問サービスを紹介したこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で掃除や洗濯物たたみ・食器拭き等手伝ってもらい、時にはお茶入れや盛付をしてもらっている。又、職員が悩み事を相談すると慰め相談に乗ってくれる場面もあり、一緒に笑い支え合って生活を送っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とはいつでも気楽に話しあえる関係が築かれていて、色々な場面で助けてもらっている。職員ではどうしても納得できないと訴える時には快く本人との電話対応や来苑してくれるなど協力的に支援してくれている。又、御家族と職員が同じ気持ちでご本人を支援していくことの大切さも話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さん・親戚の方の来苑も多く、時には苑で一緒に食事をしたり、外食されたりもしている。又、お墓参りに出掛けたり娘さんの家に訪問される事も有り、楽しい時間を過ごしてもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介助が必要な方に元気な方が話しかけてくれたり、何かあると職員に「○○さんが何か言っているわよ」と教えてくれる事もある。殆どの方が9年間一緒に暮らしている為かお互い支え合って良好な関係を保っている。又、一人が孤立した時には、必ず職員が寄り添うように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所に住んでいる、退所された入居者の御家族が、何回か来苑されている「ここに来ると母を思い出す」と昔話をしながら一緒にお茶を飲んだり、時には家で不用になったタオルや衣類など持ってきてくださるなどの関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の対応について毎月のモニタリングで話し合い、一人一人の希望や意向を考えそれにそって支援している。又、その支援が職員の思い込みや一方的なものになっていないかもその都度話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人・御家族からの情報を活用し、生活の背景を把握する事に努めている。又日常の会話の中で知り得た情報は職員皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌にはその日の日常の様子を書き、毎月のケース記録には担当が一月の心身状態や変化をまとめ記入している。また、モニタリングに沿ったケアを全職員が行ない常に総合的に見るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が中心になり毎月モニタリングを行い、実践すべきケアの継続や変更を話し合っている。又カンファレンス時はご家族にも参加して頂き、心身状態や実践状況等話し合い、その結果を日頃の支援に活かし介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した日誌を作り、変化への気付きは日誌記入する事で職員間で情報を共有している。又それを毎月のモニタリングで話し合い統一したケアを行なっている。特に大きな変化がある時はカンファレンスを開き新たな計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所からの入居者、また反対の場合も情報を提供し合い柔軟な支援を行うようにしている。又、併設している施設での音楽療法やフラワーアレンジメントへの参加も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人のボランティア「ひよこの会」の方々が行事や毎日の料理の手伝い、麻雀の相手をしてくれたりしている。また、近隣の幼稚園・小学校・中学校の生徒もボランティア活動に来苑してくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関の医師や看護師には、家族や本人の意向を伝えており医師と相談して決定した治療方針は家族に情報として伝え了承を得ている。現在一人の入居者は2週間に一度の往診を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務し、体調の確認行ない個々の看護記録作成している。職員は入居者の1週間の変化を伝え、通院や薬の服用その他様々な医療面での相談行い適切な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常に状況を連絡してくれ、出来るだけ早期の退院をこちらも望んでいる事を理解してもらっている。提携していない病院に入院する際も、常に状況を把握し早期退院について話している。入院時は必ずグループホームでの日常生活状況表を病院に提出し、本人の状態を把握してもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している方のご家族とは終末期について話し合っていて、モニタリングでも確認し変化に備えている。又、急変時はすぐに主治医とも連絡を取れるようにしている。又、運営推進会議では二度にわたり看取りケアについて話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員をAEDの研修や救急時の対応の勉強会何に参加させている。今後はまだ初期対応の訓練を行っていない職員を優先的に受講させたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練は2度行っており今年度は非常階段から実際に入居者をおろし訓練行なっている。その際近隣の方々も駆けつけてくださり訓練に協力してくれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日の生活のペースは入居者の皆さんに合わせて、要望や意見を聞き、その思いに添えるよう個別に対応していく努力をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることは自分で行ってもらい、職員も出来る事と出来ない事を見極めながら、ご本人に自信を持って頂けるように支援している。又、常に相手の思いを尊重し話し合うことに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のペースは入居されている皆さんに合わせて、要望や意見を聞き、その思いに添えるよう、尊重し個別に対応していく努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に月1度来苑してもらい、希望があればパーマやカラーも行なっている。お化粧品をする入居者は居ないが、洗顔後鏡を見てブラシで髪をとかしてもらい、眉をひいてもらう等で自分らしさを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は2名の方が食事の準備・後片付けを行ってくれている。又、牛肉が好物の入居者が一緒に食材を買いに行っている。月に数回は全員で食卓を囲み会話や歌を唄い食事を楽しむようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全員チェックし、不足している時は栄養補助食品などで補ったり、好きなものを出し食べていただいたりして一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、うがいの出来る方は自力・見守り・介助に行っている。出来ない方に関してもガーゼ使用し口腔拭行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック・排便チェックにより排泄パターンは把握できており、介助が必要な方は個々人の排泄時や表情を読み取りながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事はなるべく野菜を多く摂るように心掛け、水分摂取の管理もしている。又、便秘気味の入居者には飲むヨーグルトや牛乳を提供したり、便の緩い入居者には牛乳寒天を作り食べてもらう事等で改善を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が均等に入浴できるようになっているが、希望があればいつでも入浴できる体勢である。入浴拒否する入居者にはその時の本人の「その気」を一番に考え介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の好きな様に時間を過ごしてもらっているが、疲れた表情や傾眠見られた時はソファで横になってもらったり、入室し臥床促したりして体調に合わせた生活をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や服薬状態が変わった時は、日誌報告・モニタリングの記入等で情報を共有している。服薬による症状の変化はすぐに主治医に報告し指示を仰いでいる。錠剤のまま服用出来ない方の薬は粉碎し、オリゴ糖を使用する等で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事やしたい事を日々引き出す努力をしている。時にはボランティアさんの力を借りての麻雀等も行なっている。又一緒に手作業をする時などは、出来る事と出来なくなっている事を見極めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って出掛けられるように努力している。気温に合わせて苑庭に出たり、担当職員と一緒に買い物や外食の機会を持ったり、御家族の協力でお墓参りやご自宅までに行ったりしている。 2ユニット合同でのお花見や秋の遠足も」実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、自分のお小遣いを自分で管理している方はいませんが、買い物に行く前に、財布を持ってもらい買い物に参加している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人希望時に職員が番号を押して掛けている。手紙は届く事があってもご本人が書くことが出来なくなっているため、本人と一緒に文面を考えながら、職員と一緒に書いたり代筆したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは明るい光がいつでも入り、外を眺めては四季を感じてもらっている。 季節の行事には飾り物をしたり、旬の食べ物を食べてもらう等して季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人一人にとって居心地の良い場所があるように配慮しているが、本人のその日の気分や状態にあわせて居る場所を本人に任せている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、今まで使っていたものはそのまま持ってきてもらったり、居室に関してはご本人の思い通りにして頂いている。又、夜間・日中共に訪室し気温や湿度等の環境整備にも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた安全な移動を第一に考えている。歩行自力の入居者が夜間転倒する事無く安全に移動できるように家具の配置に気を付けトイレや洗面台の灯りは点けたままにし見守り行っている。		